

編	章・学習項目	学習のねらい	知識	技能	社会的な思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
---	--------	--------	----	----	--------------	---------------

第2編 日本のさまざまな地域	●章の評価規準					
	第1章 日本の地域構成	○地球儀や地図帳を活用し、日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを理解し、日本の地域構成を大観する。	日本の地域構成について、国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを理解し、その知識を身に付けている。	地球儀や地図など日本の地域構成に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の地域構成を、国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などをもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	日本の地域構成に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
	4					
	●各単元の評価規準					
	①世界のなかの日本の位置 1	○世界の中で日本の位置を理解し、絶対的位置や相対的位置の方法によって表現できる。 ○時差のしくみを理解し、世界各地との時差の計算によって日本の位置について表現できる。	絶対的位置や相対的位置の方法や、時差のしくみを理解し、活用している。	調査対象の地域や国の地勢図から国名や自然地名、自然環境などを読み取り、面積や人口などの基本的情報を図表などにまとめている。	世界のなかで日本の位置を理解し、絶対的位置や相対的位置を的確に表現している。また、時差のしくみを理解でき、世界各地との時差の計算によって日本の位置を説明している。	世界地図や地球儀を見ながら、日本の位置を絶対的位置や相対的位置の方法を用いてとらえようとする。また、世界各地には、それぞれの地域によって時刻があり、その時刻で生活していることに気づき、時差が生じていることに興味をもつ。
	②日本の国土の広がり ③日本の領土をめぐって 1	○日本の領域は多くの島々と領空・領海からなり、海に囲まれた海洋国家としての特色を理解する。 ○日本固有の領土である北方領土や竹島、尖閣諸島の領域をめぐる、近隣諸国との問題について考え、表現できる。	日本の領域の広がりと領域をめぐる問題について、北方領土や竹島などの歴史的背景を具体的に理解し、その知識を身に付けている。	主題図や統計グラフ、その他の資料から、調査対象の地域や国の特色を読み取っている。	日本の領域の特色とその変化、領域をめぐる問題について、日本や近隣諸国との関係をふまえ適切に説明している。	日本の地域構成を、領域の特色とその変化をもとに考察し、領域に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
	④47の都道府県 1	○47都道府県の位置と名称、地域区分の方法について、地図の上で理解する。 ○47都道府県の都道府県庁所在地名を理解し、その成り立ちについて考え、表現できる。	47都道府県の位置と名前、各県庁所在地の名前、7地方区分の名前と位置を正確に示すことができる。	景観写真の読み取りや主題図どうしの比較・関連などから、産業や経済などの地域情報を読み取っている。	47都道府県とそれを基にした7地方区分について、それぞれの位置と名称を適切に表現している。	47都道府県の位置と名称、各県庁所在地の名称、7地方区分の地方名などを工夫して覚えようとするなど、意欲的に追究し、とらえようとしている。
	⑤さまざまな地域区分 1	○日本の行政区分の変化や、目的に応じてさまざまな地域区分ができることを理解する。 ○さまざまな地域区分図から、それぞれの区分の特色について読み取ることができる。	北陸・中央高地・東海地域区分のように、その目的に応じて多様な区分が設定できることを理解できる。	調査対象の地域や国についての調査内容をレポートやコンピューターによるプレゼンテーションなどの形式にまとめている。	日本の行政区分について、歴史的な変化を地図を基に表現している。また、地域区分はその目的に応じて多様に設定できる便宜的なものであることを判断できる。	日本の地域は、等質の面や機能の面などから目的に応じてさまざまな区分ができることを意欲的に追究し、とらえようとしている。

第2編 日本のさまざまな地域	●章の評価規準					
	第2章 世界からみた日本のすがた	○世界的視野や日本全体の視野からみた日本の地域的特色を理解し、日本の国土の特色をさまざまな面から大観する。	世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野からみた自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきを理解し、その知識を身に付けている。	世界と比べた日本の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野からみた自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきをもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界と比べた日本の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
	8					
	●各単元の評価規準					
	①変動する大地と安定した大地	○世界の中で日本が不安定な地盤に位置することや、環太平洋造山帯に位置することを理解する。 ○世界の火山や地震の分布図から、日本が活動的な場所にあることや、その理由について考え、読み取ることができる。	二つの造山帯とその特色、世界の山脈・地震・火山の分布などを、プレートテクトニクスのメカニズムとして理解し、その知識を身に付けている。	「世界の主な火山と地震源の分布」と117～120ページの「世界の地形地図」とを関連させて、主な山脈や海溝の分布の特色を読み取っている。	プレートテクトニクスについての基礎的な知識と関連するメカニズムについて、図解などを用いて適切に表現している。	世界には活動が活発な造山帯と、活動の少ない安定大陸があることに興味をもち、地球規模での地形の動きをとらえようとしている。
	1					
	②変化に富む日本列島の地形	○日本の山地や火山、平野や河川の分布とそれらの名称を理解する。 ○山地や平野の成因や扇状地と三角州の違い、日本の河川の特色、海岸線に見られるさまざまな環境について理解する。	日本周辺の海流、主な山地・山脈や平野・河川の分布、扇状地・三角州の成因、海岸の種類など、地形からみた地域的特色について理解している。	「日本の主な山脈・山地、火山の分布」、「日本の主な平野・平地、河川の分布」と、118～119ページの「宇宙からとらえた日本列島」とを比較して、主な地形の分布を読み取り、白地図や略地図にまとめている。	日本の主な地形の分布や形成のしくみ、人間活動とのかかわりについて考察し、それらを説明している。	日本周辺の海流、日本の主な山地や平野の分布に興味をもち、それらの分布や成因をとらえようとしている。
	1					
	④四季のある気候	○世界には5つの気候帯が広がり、日本の大部分は温帯に属していること、日本は6つの気候に区分できることについて理解する。 ○日本の気候区分図から、各地域の気候の特色について考え、表現できる。	世界の気候帯や日本の気候区分を地図を活用して示すことができ、各地の気候の成因について理解し、その知識を身に付けている。	15～25ページの学習と関連づけながら、各地の気温と降水量のグラフや気候区分図を読み取ったり、各気候と緯度や海流との関係をまとめたりしている。	気候は緯度と海流などが影響を与え、植生景観に違いが現れること、日本はモンスーンによって気候の変化が生じたり、梅雨や台風などの現象が発生することを、説明している。	日本の気候について関心をもち、世界の気候帯の中の位置づけや、日本国内の気候の違いを調べようとしている。
	1					
	⑤自然がもたらす災害と向き合う ⑥災害から身を守るために	○日本で発生するさまざまな自然災害と、そのしくみなどの特徴を理解する。 ○さまざまな自然災害に対して、防災対策が行われていることを考え、表現できる。	地震や津波、火砕流や土石流などのさまざまな自然災害の種類、防災のための対策について理解し、その知識を身に付けている。	「日本周辺の主な地震と活断層の分布」から、プレートや活断層の分布との関係を読み取ったり、火砕流・土石流などの災害の種類についてまとめたりしている。	阪神・淡路大震災などを事例に、地震発生のしくみやそれによる社会に与える被害を学び、防災のための対策などについて適切に表現している。	日本列島は地質の上で不安定な場所に位置するため火山や地震、津波が頻発し、また、多雨であるため河川の洪水なども発生しやすいことをとらえようとしている。
	1					
	⑦世界の人口分布と変化	○世界の人口分布と自然環境との関係、先進国と発展途上国による人口変化の違いなどについて理解する。 ○人口ピラミッドから、その国や地域の人口構成の特色を読み取ったり、説明したりすることができる。	世界の人口は増加し続けていること、地域によって偏在していること、人口密度や人口ピラミッドからその地域の人口の特色がわかることを理解している。	「世界の人口密度の分布」や「世界の人口の変化」、「主な国の人口構成と日本の人口構成の変化」から、世界的な人口の動向と人口ピラミッドの意味を把握し、文章などにまとめている。	人口分布と自然環境の関係、先進国と発展途上国の人口変化の違いなど、人口に関連する事象について考察し、その関係や結果を説明している。	世界の人口分布図からアジアやヨーロッパに人口が集中していること、世界の人口は増加し続け、特に産業革命以後に急速に増加してきていることをとらえようとしている。
	1					
	⑧日本の人口分布と課題	○日本の人口分布について、三大都市圏などの過密地域と過疎地域がみられることを理解する。 ○日本の少子化・高齢化によって、今後予想される課題について考え、表現できる。	日本の人口分布には過疎・過密の問題がみられること、人口構成では少子化・高齢化が進み、さまざまな課題が予想されていることを理解し、その知識を身に付けている。	「日本の人口密度の分布」、「日本の過疎地域の分布」から、それらの地域的特色を読み取ったり、「過疎地域と過密地域の人口ピラミッド」から年齢別の人口構成の違いについて文章などにまとめている。	日本の過疎・過密の問題と少子化・高齢化について、なぜそうした傾向が生じるのか、今後どのような課題が予想されるのか、さまざまな観点から考察している。	日本の人口分布が三大都市圏や地方中枢都市を中心に集中していることに関心をもち、過疎・過密の問題や少子化・高齢化が進んでいることをとらえようとしている。
	1					

第2編 日本のさまざまな地域	⑨資源・エネルギーのかたよる分布	○世界の資源の分布や、日本は外国からの資源輸入に依存していることを理解する。 ○発電方法の種類と再生可能なエネルギーについて考え、表現できる。	世界の資源分布には偏りがあり、日本は多くの資源輸入に頼っていることや、国内の発電所の立地についてその特色や課題を理解している。	「主な国の発電エネルギー源別の割合」から国による構成割合の違いを読み取ったり、「日本の主な発電所の分布」から各発電所の立地について自然的条件や社会的条件とともに図表にまとめたりしている。	世界全体の資源・エネルギーの消費量が増え続けている中で、環境保全と経済発展をどのように両立させていくのかなど、持続可能な利用について考察している。	世界の資源分布とその消費には地域的な偏りがみられ、日本は外国からの輸入に頼っていることに関心をもち、自分でテーマを設定して、それをとらえようとしている。
	⑩産業の構成とその変化	○現在、日本は先進工業国であること、産業別人口割合は大きく変化してきたことについて理解する。 ○日本の各産業の分布の特色について、その理由などについて考え、表現できる。	日本の産業は第二次世界大戦後に急激に変化し、経済の情報化やサービス化が進んでいることや、各産業の分布の地域的特色について理解している。	「世界の一人当たり国民総所得と主な国の産業別人口の割合」、「日本の産業別人口の割合の変化」から日本が先進国であり、第三次産業が中心であることを読み取る。また、各産業の分布図から地域的特色を文章などにまとめている。	産業別人口割合の変化から、日本の産業構造の変化を考察し、各産業の分布とその要因について適切に表現している。	経済からみた世界のなかの日本の位置について関心をもち、産業別人口の割合から歴史的に変化してきたこと、各産業分布の地域的特色についてとらえようとしている。
	⑪結びつきを強める世界と日本	○世界の国々は交通や通信によって強く結びついてきており、人の移動も増えてきたことを理解する。 ○主題図やグラフから、日本は貿易によって世界の国々と密接に結びついていることを考え、表現できる。	交通・通信の技術の発達によって、世界各地と日本が結びつきを強めてきていることや、その結びつきには先進国と発展途上国などによる地域的な違いがみられることを理解している。	「世界の主な航空路線の分布」から、日本は北アメリカやアジアをはじめとした世界各地と結びついていること、「日本と主な国・地域との貿易」から、中国やアメリカ合衆国をはじめとして各国と貿易が行われていることを文章などにまとめたりしている。	世界全体として交通網やICTの発達により結びつきが強まる一方で、貿易や通信などのさまざまな格差が広がっていることを考察している。	ICTの発達により社会生活が変化しつつあることに気づき、情報の利用の度合いによってさまざまな格差が広がっていることを考察する。また、日本と世界の国々が貿易によって結びつきが深いことに関心をもち、どのような結びつきがあるかをとらえようとしている。
		○日本国内における交通・通信による各地域の結びつきの様子を知り、交通・通信の発達によって地域が変化することを理解する。 ○主題図から、国内の時間距離が短縮されてきたことや、交通網が発達してきたことを読み取ることができる。	日本の交通網が東京や大都市を中心に発達してきたこと、通信網の発達により情報化社会となっていること、交通の発達と地域への影響について多面的に理解している。	「東京から各地への時間距離からみた日本地図の変化」から、変化の大きい地域と小さい地域を読み取ったり、その要因について「日本の新幹線網と高速道路網の変化」と関連づけて文章などにまとめたりしている。	なぜ、東京と各地とを結ぶ時間距離が縮められてきたのか、また、交通網・通信網が発達することによって広がる地域格差について考察している。	国内の交通網や通信網の発達により、人やものの移動が活発になることに関心をもち、地域社会へ与える影響などをとらえようとしている。

●節の評価規準						
第3章 日本の諸地域 1 九州地方～環境問題と環境保全を中心とした考察		○地域の環境問題や環境保全の取り組みを中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連づけ、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取り組みが大切であることなどについて考察する。	九州地方について、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。	九州地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	九州地方の地域的特色を、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	九州地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
4						
●各単元の評価規準						
①多様な自然環境に恵まれた地域 1		○九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○九州地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解している。また、日本の南西部に位置するため温暖な気候にあり、台風の被害を受けやすいことなどを理解している。	九州地方の位置や構成する県、主な自然地名を読み取ったり、屋久島の自然環境や保全などについて、地形図などから読み取り、図表などにまとめたりしている。	九州地方の位置が中国や韓国と近いために歴史的な結びつきが深いことを理解し、また、諫早湾の干拓と環境への影響などを考察し、適切に説明している。	九州地方を大観し、諫早湾干拓や世界自然遺産に登録されている屋久島から、環境問題や環境保全に対して興味をもち、とらえようとしている。
②さんご礁の海を守る		○南西諸島の自然環境と歴史の特色、観光開発による環境への影響について理解する。 ○さんご礁の白化現象と保護活動の例から、観光開発と環境保全の関係について考え、表現できる。	南西諸島の自然環境と沖縄の歴史をとらえ、さんご礁の白化現象と保護活動の例から、観光開発と環境保全の関係について理解している。	「沖縄に生息するさんごの分布の変化」から、さんごの生態系の破壊を読み取ったり、その要因や対策についてまとめたりしている。	さんご礁の環境破壊の要因を考察し、さんご礁の保全活動やエコツーリズムなどを通して、それらの意義を適切に表現している。	南西諸島のさんご礁について関心を高め、観光開発による影響と保全の活動などについて、とらえようとしている。
③火山とともに暮らす 1		○九州地方に火山が集中していることや、火山が人々の暮らしに及ぼす影響について理解する。 ○桜島の火山活動を例に、地域の人々の対応や利用について考え、表現できる。	九州地方に火山が集中していることや、桜島などを事例として火山が人々の暮らしに及ぼす影響や対応について理解している。	「九州地方の火山分布と各地のハザードマップ」から、九州には火山が多く南北に連なって分布していることを読み取っている。	シラス台地の特色を調べ、それが人々の生活にどのような影響を与え、またどのように対応しているのかを説明している。	火山は地域にどのような利点や欠点があるのかを知り、不利な点をどのように克服しているのかを、とらえようとしている。
④環境を守る循環型の農業 1		○九州地方では自然環境を生かした畜産業が盛んであり、循環型農業などが行われていることを理解する。 ○阿蘇山の草原の野焼きを例に、人間が積極的にしかかわる環境保全のあり方について考え、表現できる。	阿蘇山の草原の野焼きを例に、人間が積極的にしかかわる環境保全のあり方に気づき、九州地方では自然環境を生かした畜産業が盛んであることや、循環型農業が取り組まれていることについて理解している。	「主な家畜の都道府県別の飼養頭数の割合」、「都道府県別の畜産業生産」から、九州地方の畜産業を全国と比較しながら読み取っている。	九州地方が全国有数の畜産地域となっている過程を理解し、また外国産の安い肉類に対抗するためにどのような努力をしたのかを説明している。	阿蘇山の野焼きによる環境保全のあり方や食品のリサイクル、バイオマスエネルギーなどに興味をもち、とらえようとしている。
⑤煤煙の街からエコタウンへ 1		○九州地方の工業生産の特色と公害の発生、エコタウン事業について理解する。 ○北九州市を例に、公害とその克服の取り組みについて考え、表現できる。	北九州市の公害の発生とその克服の取り組みを事例として、九州地方の工業生産の特色、エコタウン事業についての知識を身に付けている。	「日本のエコタウンの分布」から全国各地の環境保全の取り組みの状況、「九州地方の主な工業の分布」から北九州工業地域を中心とした工業生産を読み取っている。	北九州市と市民の公害対策のあゆみを調べ、どのようにして改善し、ゼロ・エミッションの取り組みが進んでいったのかを説明している。	北九州市の大気汚染、水質汚濁の解消のあゆみやエコタウン事業の実際を知り、ゼロ・エミッションへの取り組みやその努力の様子に興味をもち、とらえようとしている。

●節の評価規準					
第3章 日本の諸地域 2 中国・四国地方～人口や都市・村落を中心とした考察	○地域の人口の分布や動態，都市・村落の立地や機能に関する事象を中核として，それを人々の生活や産業などと関連づけ，過疎・過密問題の解決が地域の課題となっていることなどについて考察する。	中国・四国地方について，人口や都市・村落を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。	中国・四国地方の地域的特色に関するさまざまな資料から，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	中国・四国地方の地域的特色を，人口や都市・村落を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め，それらを意欲的に追究し，とらえようとしている。
4					
●各単元の評価規準					
①人口分布のかたよる地域 1	○中国・四国地方の位置と自然環境を大観し，構成する県の位置と名称を理解する。 ○中国・四国地方の地勢図から，主な自然地名や各県，主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	中国・四国地方の位置と自然環境を大観し，構成する県の位置と名称を理解するとともに，人口の分布の特色から3つの地域に区分できることを理解している。	中国・四国地方の位置や構成する県，主な自然地名，主な都市の位置と名称を読み取ったり，「中国・四国地方の人口分布」から分布の様子を文章などにまとめたりしている。	中国・四国地方の人口分布からその特色を考察し，その特色が歴史的な要因と密接に関連していることを説明している。	瀬戸内海の沿岸地域が古くから交通の要所であることに興味をもち，中国・四国地方の位置と自然環境を大観し，構成する県の位置と名称をとらえようとしている。
②中国・四国地方の中心 広島	○中国・四国地方において広島市が地方中枢都市となっており，都市化によって起こる課題について理解する。 ○地形図の新旧比較から，広島市の都市の発達について歴史的な変化を読み取ることができる。	中国・四国地方では広島市が地方中枢都市となっており，都市化によって起こる課題について理解している。	新旧地形図の比較から，広島市の都市の発達について歴史的な変化を読み取ることができ，文章などにまとめようとしている。	明治時代に軍都となった理由を，交通の要所であったことや，アジアでの広島の位置関係を多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	広島市の歴史を調べる中で，城下町から軍都となり，原子爆弾の投下を経て政令指定都市となり，地方中枢都市となるまでの変遷に興味をもち，とらえようとしている。
③人口減少と地域のなやみ 1	○中国山地の農村などで人口減少が続いており，過疎化にともなう課題がみられることを理解する。 ○島根県大田市を例に，人口構成の特色と地域の活性化について考え，表現できる。	中国山地の農村などで人口減少が続いており，耕作放棄地の拡大など過疎化にともなう課題がみられることを理解している。	「都道府県別，中国・四国地方の市区町村別の人口増減率」から，日本全体と中国・四国地方の地域的特色やその動向を読み取っている。	島根県大田市を例に，人口構成の特色と地域の活性化について考え，その課題にどのように取り組むかについて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	中国山地の農村での人口減少が地域にどのような影響を与え，さまざまな課題をもたらしているのかをとらえようとしている。
④地域おこしの知恵 1	○過疎地域における，地域おこしや人々の努力の事例について理解する。 ○高知県馬路村を例に，地域おこしについて関心をもち，各地の人々の努力について調べようとする態度を養う。	馬路村や上勝町を事例に，過疎地域における地域おこしや人々の努力，課題について理解している。	「馬路村の人口構成」，「上勝町の人口構成」から，過疎地域に共通する人口構成の特色を読み取り，地域おこしのものや各地の人々の努力について調べようとしている。	多くのエネルギーを消費して輸入する食品よりも地元の産物を消費しようとする地産地消の考え方を理解し，地域おこしの課題について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	高知県馬路村のゆずや徳島県上勝町の「つまもの」などを事例に，商品開発と通信販売などによって地域おこしを図る人々の努力に興味をもち，とらえようとしている。
⑤交通網の発達と人口の変化 1	○中国・四国地方の交通網の整備によって，地域の人々の生活に与えた影響について理解する。 ○中国・四国地方の交通網の変化を示した主題図から，人々の行動圏が拡大したことや航路の廃止などを読み取ることができる。	中国・四国地方の交通網の発達によって，人々の生活に与えた影響を多面的に理解している。	「中国・四国地方の主な交通網の変化」から，人々の行動圏が拡大したことや航路の廃止，地方空港の新設などの変化を読み取っている。	本州四国連絡橋の完成を例に，完成前と完成後の人々の生活がどのように変化したかについて，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	中国・四国地方の交通網の特色に注目し，山陽新幹線や本州四国連絡橋の開通と，それによる地域の変化に興味をもち，とらえようとしている。

●節の評価規準					
第3章 日本 の諸地域	3 近畿地方～歴史的 背景を中心とした考 察	○地域の産業、文化の歴史的背景や開 発の歴史を中核として、それを国内外 の他地域との結びつきや自然環境など と関連づけ、地域の地理的事象の形成 や特色に歴史的背景がかかわっている ことなどについて考察する。	近畿地方について、歴史的背景を中核 とした考察の仕方をもとに地域的特色 を理解し、その知識を身に付けてい る。	近畿地方の地域的特色に関するさまざ まな資料から、有用な情報を適切に選 択して、読み取ったり図表などにまと めたりしている。	近畿地方の地域的特色を、歴史的背 景を中核とした考察の仕方をもとに 多面的・多角的に考察し、その過程 や結果を適切に表現している。
	5				
●各単元の評価規準					
①歴史に育まれた地域	1	○近畿地方の位置と自然環境を大観し、構成する府県の位置と名称を理解する。 ○近畿地方の地勢図から、主な自然地名や各府県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	近畿地方の位置と自然環境を大観し、構成する府県の位置と名称を理解するとともに、大まかな歴史的背景を理解している。	近畿地方の位置や構成する府県、主な自然地名を地勢図から読み取ったり、歴史的背景について図表などにまとめたりしている。	近畿地方が古代から中世にかけて日本の中心として栄えた理由や、近世には経済の中心であったことなど、歴史的事象を背景として説明している。
	②京都の街並みと景観保全	○伝統的な街並みと都市の発達によって、景観の保存と開発という対立と調和について理解する。 ○景観の保全と開発において、さまざまな立場の意見について考え、表現できる。	京都市を事例として、開発や都市化、伝統的な街並みと景観保存などにおける対立と調和について理解している。	「京都市の街並み」、「平安京の大路と現在の市街地の広がり」から、京都の地割の特色を読み取っている。	地域開発と景観保全において、さまざまな立場や意見があることを説明できる。
③阪神工業地帯の発展と課題	1	○現代の阪神工業地帯における工業の特色や、その歴史的な変化を理解する。 ○東大阪市を例に、地域のものづくりの特色について考え、表現できる。	現代の阪神工業地帯における工業の特色や課題、その歴史的な変化を理解している。	「日本の主な製鉄工場の分布の変化」、「近畿地方の主な工業都市の分布」から、阪神工業地帯の地域的特色や、「日本の工業地帯・工業地域」から全国に占める割合の変化などを読み取っている。	東大阪市を例に、地域のものづくりの特色について考え、また過去から現在の阪神工業地帯の変遷について、歴史的事象を背景に説明している。
④商業のまち・大阪の変化	1	○大阪の商業について、その歴史的な変化と現代における課題、その要因を理解する。 ○京阪神大都市圏の交通網の整備とニュータウンなどの都市発達の特色について考え、表現できる。	大阪の商業について、その歴史的な変化と、東京の一極集中の進行による影響について理解している。	「京都市・大阪市・神戸市への通勤・通学者の分布」から、都市分布と交通網の関係を読み取ったり、「卸売業の年間商品販売額に占める各都府県の割合の変化」「卸売・小売業企業の本社の所在地分布」から東京都と大阪府の地位についてまとめたりしている。	京阪神大都市圏の交通網の整備とニュータウンなどの都市発達の特色について考え、説明している。また、関西国際空港の位置と課題について指摘している。
⑤琵琶湖の水の利用と環境	1	○琵琶湖の自然環境や近畿地方の水源地としての特徴、環境保全の歴史を理解する。 ○琵琶湖の環境保全と周辺地域の開発の対立について考え、表現できる。	琵琶湖の自然環境や水源地としての特徴、環境保全の歴史、周辺地域の開発との対立について理解している。	「淀川水系の水供給地域」から、琵琶湖が重要な水源地であることや、「琵琶湖の環境保全の歴史」「琵琶湖の水質分布の変化」から、琵琶湖の環境の変遷について読み取っている。	琵琶湖の環境保全と周辺地域の開発の対立について考え、環境保全にはさまざまな立場や意見があること、そうした必要な知識を得ることの重要性を説明している。

●節の評価規準					
第3章 日本 の諸地域 4 中部地方～産業を中心 とした考察	○地域の産業に関する事象を中核として、それを成り立たせている地理的諸条件と関連づけ、地域に果たす産業の役割やその動向は、他の事象との関連で変化するものであることなどについて考察する。	中部地方について、産業を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。	中部地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	中部地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
	5				
●各単元の評価規準					
①産業が活発な地域	○中部地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○中部地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	中部地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称、東海地方・中央高地・北陸地方の地域名と範囲を理解している。	中部地方の位置や構成する県、主な自然地名、主な都市の位置と名称を読み取ったり、地図帳を使って「各地のさまざまな産業」で示された写真の撮影場所の位置を確かめている。また129ページ「北陸地方、中央高地、東海地方の区分」から、各地域の範囲を調べている。	中部地方を地形・気候の面から3つの地域に区分して、各地域における産業とのかかわりを説明している。	東海地方・中央高地・北陸地方の3地域の違いに関心を高め、それらを中心に中部地方について調べようとしている。
②日本経済をリードする工業地域	○中京工業地帯と東海工業地域には、自動車などの機械工業などが発達しており、地域経済を支えていることを理解する。 ○豊田市の自動車産業を例に、合理化された生産体制などについて考え、表現できる。	中京工業地帯と東海工業地域には自動車を中心とした機械工業が発達していることや、それがこの地域の経済を支えていることを理解している。	「中京工業地帯の工業分布」「中京工業地帯と東海工業地域の工業都市の分布」から、主な都市と工業の種類を読み取ったり、関連させて「主な工業地帯・工業地域の生産額の割合」から中京工業地帯・東海工業地域の特徴を調べている。	中京工業地帯や東海工業地域の工業の特徴について、各都市で盛んな工業を例に挙げながら説明している。	中京工業地帯・東海工業地域の地域的特色に関心をもち、自動車を中心とした機械工業の発達の経過についてとらえようとしている。
③先進的な第一次産業	○東海地方では、付加価値を高めた先進的な第一次産業の生産について理解する。 ○静岡県のお茶の生産を例に、集約化された農業生産の工夫などについて考え、表現できる。	東海地方における第一次産業での付加価値を高めるための工夫や、他地域との競争や後継者不足といった課題について理解している。	「日本の漁獲量の変化」から、遠洋漁業や沖合漁業、輸入量との関係に気づき、その理由を読み取り、「日本の主な漁港と水揚げ量」から、主な海流と漁港の分布の関係などを読み取っている。	静岡県のお茶の生産を事例に、その発展の経過や集約化された生産の工夫などについて整理し、説明している。	東海地方の集約的な農業や水産業に対する関心を高め、その発達の自然的条件や社会的条件を調べようとしている。
④自然環境を生かした産業	○中央高地では、自然的条件を生かした農業や観光業が盛んであることを理解する。 ○長野県の野辺山原を例に、高原野菜の生産と他地域との時期をずらした出荷などについてその利点を考え、表現できる。	中央高地では、自然的条件や交通網の整備による首都圏との結びつきを生かした農業や観光業が盛んであることを理解している。	「レタスの月別出荷量」から、長野県その他県と時期をずらした出荷を気候との関係から読み取る。「中央高地の主な観光地と観光客数」から、主な観光地の分布と交通網の広がりとの関係を読み取っている。	中央高地の農業や工業、観光業の特徴を自然的条件や歴史的背景をもとに考え、その利点を説明している。	八ヶ岳山麓などにおける高冷地野菜栽培、諏訪湖周辺の工業生産、自然環境を生かした観光業に関心をもち、中央高地の産業の様子をとらえようとしている。
⑤雪に育まれた伝統産業	○北陸地方における多雪と伝統産業の発達、多雪と水田単作との関係について理解する。 ○北陸地方の伝統的工芸品や、日本各地の地場産業に関心をもち、調べようとする態度を養う。	北陸地方が多雪地帯であることをふまえて、伝統産業が発達した理由や農業が水田単作中心であることを理解している。	「日本の年最深積雪量の分布」から、北陸地方が日本でも有数の多雪地帯にあることを確かめ、それと伝統産業や水力発電の分布との関係を読み取る。「主な県の農業生産額の割合」から、北陸地方は、中央高地・東海地方と比べて米中心（水田単作）であることを読み取っている。	北陸地方の多雪という環境が、伝統産業や水田単作、北陸の近代工業の発達に関係していることを指摘している。	金沢市を事例に、北陸地方の伝統産業や地場産業、水田単作に関心をもち、自然的条件などと関連づけてとらえようとしている。

●節の評価規準					
第3章 日本 の 諸地域 5 関東地方～他地域との結びつきを中心とした考察	○地域の交通・通信網に関する事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などと関連づけ、世界や日本の他地域との結びつきの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考察する。	関東地方について、他地域との結びつきを中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。	関東地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	関東地方の地域的特色を、他地域との結びつきを中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	関東地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
	4				
●各単元の評価規準					
①日本の中心的地域	○関東地方の位置と自然環境を大観し、構成する都県の位置と名称を理解する。 ○関東地方の地勢図から、主な自然地名や各都県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	関東地方の位置と自然環境を大観し、構成する都県の位置と名称を理解するとともに、日本の中の中心性や各地との結びつきを理解している。	関東地方の地勢図から、主な自然地名や各都県、主な都市の位置と名称を読み取る。「日本国内の主な航空路線の旅客数」から、東京国際空港の中心性や旅客数の多い路線は主に西日本に多いことを読み取っている。	東京に首都機能があり、人・もの・情報などが集中することが、関東平野の人口増加につながったことを説明している。	羽田空港が日本の航空路線の中心であることに気づき、関東地方と日本各地や世界各地との結びつきについてとらえようとしている。
②日本の首都 東京	○首都のもつ中枢管理機能によって、東京は日本の政治・経済・文化の中心地となっていることを理解する。 ○鉄道のターミナルに副都心が発達し、土地の効率的な利用のために高層ビルが建ち並ぶことについて考え、表現できる。	首都のもつ中枢管理機能によって、東京が日本の政治・経済・文化の中心地となっていることを理解している。	「東京周辺の昼間と夜間の人口」から、変化が大きい地域を読み取り、その理由を東京の地価などをもとにして読み取っている。	副都心開発や、高層ビルの増加の理由について、集中の緩和や土地の有効利用といった観点から考察し、説明している。	東京都千代田区周辺に首都機能が集中している様子から、東京の特色に関心をもち、それをとらえようとしている。
③拡大する都市圏	○東京を中心とした大都市圏の拡大によって、過密にともなう課題が発生し、都心の機能が移転したことを理解する。 ○東京への通勤・通学圏の拡大の理由について、鉄道網の発達と関連づけて考え、表現できる。	東京大都市圏の拡大によって、過密にともなう課題が発生し、都心機能の移転などの対策が行われたことを理解している。	「東京23区への通勤・通学者人口の分布」から、東京への通勤・通学圏が、鉄道網に沿って放射状に広がっている様子を読み取っている。	東京大都市圏が拡大したことによる問題点を、過密の観点をふまえて説明している。	都心部の混雑や地価の高騰に関心をもち、東京大都市圏が拡大した理由やその問題点をとらえようとしている。
④東京湾岸から内陸地域へ	○関東地方は日本最大の工業の発達した地方であり、東京湾岸地域から内陸地域へと拡大してきたことを理解する。 ○工業地域の拡大の理由を、用地や労働力、交通網の発達と関連づけて考え、表現できる。	関東地方の工業地域が東京湾岸から内陸へと拡大して発展したことと、それにより関東地方は日本最大の工業の発達した地方となったことを理解している。	「関東地方の主な工業都市の分布」から、東京湾岸を中心とした京浜工業地帯と内陸の北関東工業地域の広がりを読み取っている。「地域別の工業別生産額割合」から、3つの工業地域の工業の特色を比較し、文章にまとめている。	関東地方で工業地域が拡大した理由を、用地や労働力の確保、交通網の発達と関連づけて考察している。	関東地方で工業地域が拡大した経緯に関心をもち、その理由を調べようとしている。
⑤世界都市 TOKYO	○成田国際空港や横浜港は世界の多くの国々と結びついており、関東地方は外国との窓口としての機能をもつことを理解する。 ○世界との結びつきが強まることで、地域の国際化が進み、外国人労働者が増加したことなどについて考え、表現できる。	成田国際空港や横浜港、東京など関東地方が外国との窓口としての機能をもつことを理解している。	「都道府県別の外国人登録者数」から、関東地方に多くの外国人が居住していることを読み取っている。「横浜港と成田国際空港の貿易品目」から、両者の違いに着目し、その特色と理由を表にまとめている。	東京を中心とする関東地方に外国人が多く居住する理由として、政治や経済面で世界との結びつきが強まったことを例を挙げて説明している。	関東地方には多くの外国人が居住していることに気づき、国際化してきた理由を追究しようとしている。

●節の評価規準					
第3章 日本の諸地域 6 東北地方～生活・文化を中心とした考察	○地域の伝統的な生活・文化に関する事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などに関連づけ、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考察する。	東北地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称とともに、主な年中行事について理解している。	東北地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称、奥羽山脈を境にした東西の自然環境の相違を読み取っている。	東北地方を日本海側と太平洋側に分け、気候の違いを季節風の向きと関連づけて説明している。また、青森ねぶた祭の由来についてその背景などを考察している。	東北地方の生活・文化に対する関心を高め、それらを中心として東北地方の特色を意欲的に調べようとしている。
4					
●各単元の評価規準					
①豊かな文化を育んだ地域 ②現代に生きる地域文化	○東北地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○東北地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	東北地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称とともに、主な年中行事について理解している。	東北地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称、奥羽山脈を境にした東西の自然環境の相違を読み取っている。	東北地方を日本海側と太平洋側に分け、気候の違いを季節風の向きと関連づけて説明している。また、青森ねぶた祭の由来についてその背景などを考察している。	東北地方の生活・文化に対する関心を高め、それらを中心として東北地方の特色を意欲的に調べようとしている。
	○秋田県を例に、多雪地域の自然環境に応じて伝統的な文化が生まれてきたことを理解する。 ○東北地方各地の伝統的工芸品と、その歴史的背景について考え、表現できる。	秋田県を例に、多雪地域の自然環境に関連して伝統的な文化や工芸品が育まれてきたことを理解している。	「東北地方の伝統工芸品の分布」から、各地の工芸品について読み取っている。	「大館曲げわっぱ」を事例に、東北地方各地の伝統的工芸品が育まれた歴史的背景や自然環境について考察している。	秋田県の自然と生活・文化の関係に関心をもち、多雪地域の暮らしを調べようとしている。
③東北地方の食文化と水産業	○岩手県を例に、伝統的な食文化や住居形態の背景や、伝統芸能を観光資源として生かしていることについて理解する。 ○『遠野物語』の民話などから、かつての人々の暮らしの様子に関心をもち、地域文化について調べようとする態度を養う。	岩手県の伝統的な食文化や住居形態の歴史的背景、伝統芸能が観光資源として活用されていることを理解している。	「日本の無形文化遺産」から、国際的に認められた伝統行事などの分布を読み取っている。「南部曲家の間取りの例」から、馬屋と一体化した住居の形態を確認している。	岩手県の伝統的な「食」の地域的な違いや伝統芸能の国際化、かつての馬と人とのかかわりを『遠野物語』や南部曲家などから考察している。	『遠野物語』の民話から、かつての人々の暮らしの様子に関心をもち、地域文化について調べようとしている。
④冷害を乗り越える農家	○東北地方では農業の冷害が発生しやすい一方で、稲の品種改良などの対策を工夫してきたことを理解する。 ○農業経営を安定させるため、稲作と果樹栽培や畜産などとの複合経営が行われてきたことについて考え、表現できる。	東北地方では、稲の品種改良や複合経営などによって冷害に対する工夫をしてきたことを理解している。	「日本の米生産量の地方別割合」から東北地方の占める地位を確認し、「東北地方各県の米品種別作付面積の割合」から、各地で特色ある銘柄米が生産されていることを読み取っている。	稲作を中心とした農業経営を安定させるために、稲の品種改良、果樹栽培や畜産などとの複合経営が行われてきたことを指摘している。	山形県での冷害に対する稲作の工夫に関心をもち、東北地方の農業について追究しようとしている。
⑤農村の暮らしの変化	○農村地域の景観の変化について、都市化、工業化などに関連づけて理解する。 ○兼業農家の増加について、農業の機械化やグローバル化と関連づけて考え、表現できる。	農村地域の景観の変化について、都市化や工業化、国際化と関連づけて理解し、また、伝統行事や文化財保護の取り組みの大切さに気づいている。	「東北地方各県の専業・兼業農家の割合」から、全国と比べて全体的に兼業農家割合が高いことを読み取っている。「東北地方の主な交通網と工業の分布」から、1970年から工業生産額が増加したこと、IC関連工場が高速道路沿いに分布していることを読み取っている。	農村地域の景観の変化について、農村の都市化、農業の機械化、地域の工業化、国際化などと結びつけて考察している。	農村の景観や稲作技術の変化に関心をもち、人々の暮らしの変容について追究しようとしている。

●節の評価規準					
第3章 日本の諸地域 7 北海道地方～自然環境を中心とした考察	○地域の地形や気候などの自然環境に関する事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連づけ、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考察する。	北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。	北海道地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	北海道地方の地域的特色を、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	北海道地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
4					
●各単元の評価規準					
①自然改変の歴史をもつ地域 1	○北海道地方の位置と自然環境を大観し、主な都市の位置と名称を理解する。 ○北海道地方の地勢図から、主な自然地名や主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	北海道地方の位置や自然環境を大観し、主な都市の位置と名称、自然環境の改変と明治政府の政策との関連を理解している。	北海道地方の地勢図から、主な自然地名や主な都市の位置と名称を読み取っている。「北海道の土地利用の変化」から、原生林が開拓され農地へと変化したことや、都市が発達してきたことを読み取っている。	北海道地方の自然環境の改変の理由について、明治政府の政策や開拓の歴史から説明している。	北海道地方の自然環境に対する関心を高め、それを中心として北海道地方の特色について調べようとしている。
②厳しく長い冬と暮らし	○亜寒帯に属する北海道の気候と、それに対応した人々の暮らしの特色について理解する。 ○再生可能なエネルギーの利用について関心をもち、身近な地域での事例について調べようとする態度を養う。	亜寒帯に属する北海道地方の気候の特色を理解し、それに対応した人々の暮らしの特色について理解している。	「北海道の日照時間と1日の最高気温の分布」、「北海道各地の気温と降水量」から、日本海側と太平洋側の特色の違いを読み取っている。	寒冷な気候のなかでの人々の暮らしの特色や、そうした気候を活用した生活の工夫について指摘している。	再生可能なエネルギーの利用について関心をもち、北海道や身近な地域での事例について調べようとしている。
③日本の食料基地として 1	○北海道の大規模な農業経営と、日本の食料基地としての役割について理解する。 ○十勝平野の畑作や根釧台地の酪農について、自然的条件や社会的条件と関連づけて考え、表現できる。	北海道が日本の「食料基地」と呼ばれる理由や、北海道各地の農業の特色について理解している。	「日本の耕地面積に占める都道府県別割合」、「北海道と全国の耕作面積の比較」から、北海道の農業の特色を読み取っている。	十勝平野の畑作や根釧台地の酪農の特色について、自然的条件や社会的条件と関連づけて考察している。	北海道の大規模な農業の様子に関心を高め、その特色や課題をとらえようとしている。
④「とる漁業」から「育てる漁業」へ 1	○北洋漁業における漁獲制限や、栽培漁業や養殖の拡大の傾向について理解する。 ○水産資源の保護と北洋漁業の課題について関心をもち、国際関係と関連させて調べようとする態度を養う。	北洋漁業に代表される「とる漁業」がいきづまった理由や、北海道の栽培漁業や養殖の拡大傾向について理解している。	「北海道の海面漁業生産の変化」から、北海道の漁業全体と栽培漁業の生産の変化を読み取っている。「北洋漁業の漁場と排他的経済水域」から、北方領土の位置とその影響を調べている。	北洋漁業が大きく変化した理由を、歴史的経過をふまえて説明している。	北海道の漁業が「とる漁業」から「育てる漁業」へ変化してきた理由をとらえようとしている。
⑤豊かな自然を生かした観光 1	○北海道の豊かな自然を生かした観光産業と地域の活性化の関連について理解する。 ○身近な地域での自然や伝統的な文化を楽しむエコツアーのあり方について考え、表現できる。	北海道の観光資源の多くは豊かな自然環境を生かしたものであることや、交通網整備の遅れなどの課題について理解している。	「北海道の外国人観光客の国・地域別割合」から、アジアからの観光客が多いことを読み取っている。「北海道内の月別観光客数」から、観光客は夏季に多く、冬季に少ないことを読み取っている。	身近な地域での自然や伝統的な文化を楽しむエコツアーのあり方について、北海道の具体的な事例をもとに考察している。	北海道地方の自然環境を生かした観光の特色について、追究しようとしている。

●章の評価規準					
第4章 身近な地域の調査	○身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、地域に対する理解と関心を深めて地域の課題を見いだし、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養う。市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付ける。	身近な地域の調査について、地域的特色や地域の課題とともに、身近な地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。	身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	身近な地域の地理的事象から課題を見いだし、身近な地域の調査を行う際の視点や方法をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を地理的なまとめ方や発表の方法により適切に表現している。	身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
4					
●各単元の評価規準					
①地域をながめて	○身近な地域を調査する方法の中で野外調査に関連する技術を身に付ける。	地域調査の見通しの立て方や野外観察の主な視点を理解し、地形図と実際の風景の関係に気づいている。	身近な地域を調査するための観察の仕方やその主な視点を実際の野外調査を通じて身に付けている。	身近な地域観察を通して、地形図と実際の風景の関係や疑問点を指摘している。	身近な地域の学習に対して関心を高め、中学校の周辺を注意深く観察し、発見や疑問を記録している。
1	○身近な地域に対して関心を高め、注意しながら観察しようとする態度を養う。				
②地形図の見方を知ろう	○地形図の縮尺とそれに応じた表現の違いについて理解し、読み取りなどの技能を身に付ける。	地形図の縮尺とそれに応じた表現の違いについて理解し、読み取りなどの技能を身に付けている。	縮尺とそれに応じた表現の違いをふまえて、地形図上の長さを実際の距離の関係をとらえ、必要な情報を読み取っている。	調べる対象に応じて適切な縮尺の地形図を推測し、調査にふさわしい地形図を選択している。	さまざまな縮尺の地形図の存在に関心をもち、それぞれの表現の違いについて発表しようとしている。
2	○調べる対象に応じて適切な縮尺の地形図を選択し、読み取ることができる。				
③地形図を活用しよう	○地形図に表現される方位、地図記号、等高線のしくみについて覚え、それぞれの読み取りの技能を身に付ける。	地形図上の方位、地図記号、等高線のしくみについて理解し、それを基に身近な地域について知識として身に付けている。	地形図に表現される方位、地図記号、等高線のしくみについて覚え、それぞれの読み取りの技能を身に付ける。	地形図上の方位、地図記号、等高線など地理的な情報をもとに、身近な地域の様子について文章で表現している。	さまざまな地図記号に関心をもち、地形図のきまりや読み取り方について意欲的に調べようとしている。
1	○地形図上で読み取ることのできる地理的な情報を言語化し、文章に表現できる。				